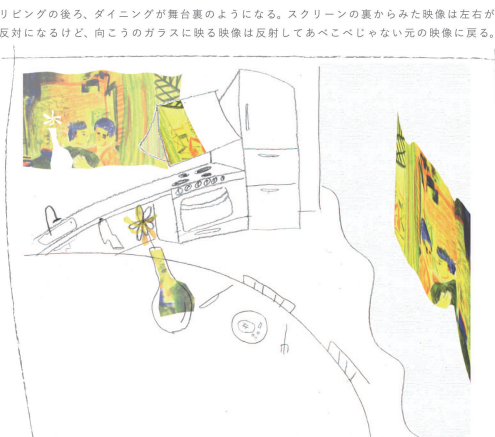




リビングとダイニングの間のカーテンを引くとリビングがシアタールームに。



夜。リビングの窓に映るスクリーンの映像。



リビングの後ろ、ダイニングが舞台裏のようになる。スクリーンの裏からみた映像は左右が反対になるけど、向こうのガラスに映る映像は反射してあべこべじゃない元の映像に戻る。



リビングが一番近いおじいちゃんの部屋。レコードもDVDもたくさん持っている。自室の窓ガラスにスクリーンの映像が映りこむのが楽しいので、部屋とリビングを仕切るカーテンはいつもは開いている。



夜中にお腹が空いてキッチンへ。ふわっと右後ろあたりが明るくなって目をやると、向こうの窓に冷蔵庫を物色する自分の姿が映っていた。手に取ったジャムの瓶を袖に隠す。

ある映画好きの家族の家

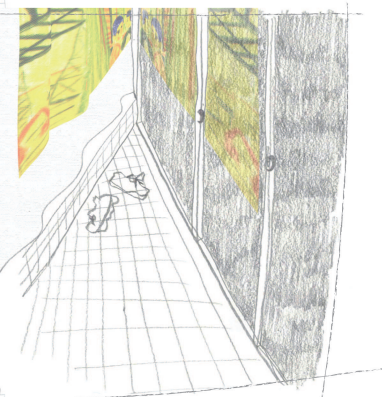
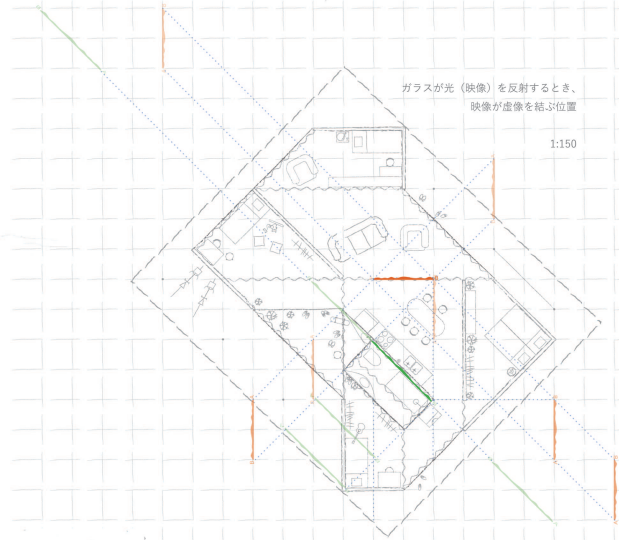
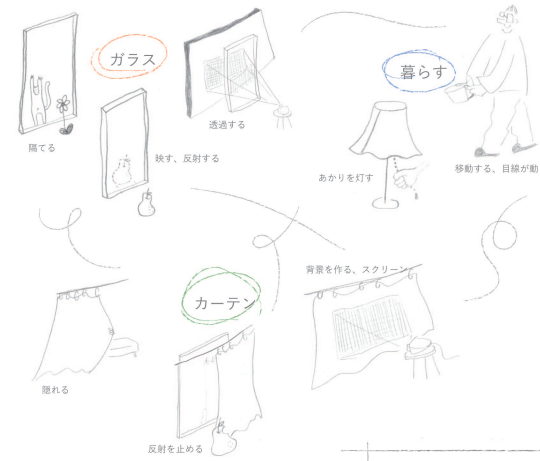
ガラスの向こうは透けて見える。ガラスはその手前にあるものを映し出す。どちらがより目に付くかは、ガラスと自分がいる場所、周囲の環境の関係によって決まる。ガラスの向こうの方が、自分がいる場所よりも暗ければ、そのガラスには自分が映る。ガラスの向こうのほうの方が明るければ、向こう側に何があるのかが透けて見える。

ある映画が好きな家族の家を考える。リビングとダイニングの間には大きなカーテンがあって、スクリーンとして映像を投影して毎晩おじいちゃんが持っているお気に入りの映画をみんなで楽しむ。

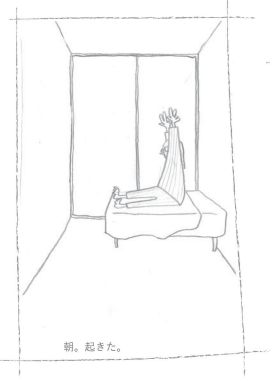
この家でガラスは外と内、水場とそれ以外を分ける役割がある。それは映像や部屋を映したり、ただ向こう側が見えたりする。この家ではカーテンは家族のプライベート空間を作るための役割がある。それは映像の背景を作ったり、ガラスの反射を止めたりする。この家では家族が暮らしていて、移動したり、電気を消したりついたりする。

ガラス、カーテン、人が動いたり動かなかったりして関係性が移り変わる、生活と共にスクリーンの位置が移動し、いたるところに映像が漏れ出して、ふとガラスに映る日常の自分の姿と混ざり合う。

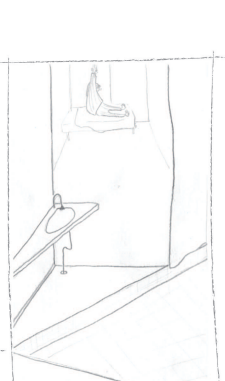
ガラスがもたらす映像性によって、物語と生活が万華鏡のように混ざり合う家。



リビングから、バスタイレのガラスの壁を透って玄関のカーテンまでたどり着いた。夜、玄関のガラスにカーテンが映るから、映像も映る。



朝。起きた。



起きて伸びをしているお兄ちゃんがバスタイレのガラスに映ってる。やっと起きたんだ。



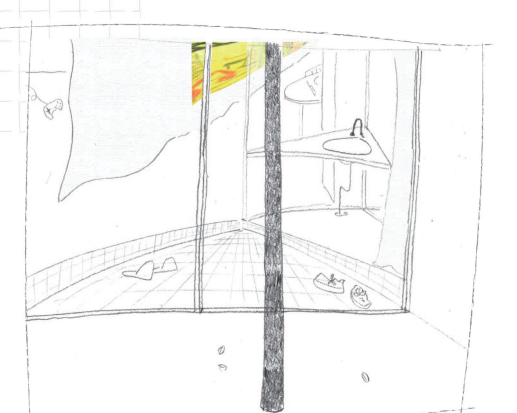
湯船に浸かっていると映画がはじまった。さっき後で覗きうって言ったやつ、もう少し待っててくれてもいいのに。



洗面台の鏡。あべこべの映像が、ガラスを透過して、鏡に映るのでもた元の正しい映像が見える。



洗面台の鏡。の後ろにある部屋。鏡からはみ出した光がガラスに映って、後ろからうっすらと見える。部屋の壁にもかすかに色が付く。



玄関から。個室や手洗いのカーテンを開けると斜めに伸びるリビングのスクリーンが見える。